

中之町小の「三愛」

私がつ通っている中之町小学校では、「三愛」を目標に頑張っています。「三愛」とは、学びあい・思いあい・高めあいの「三つのあい」愛」で、「三愛」です。

この「三愛」を例えば授業の場面で考えてみると、自分の意見を友達に伝えたり、友達の意見から考えを深めたりして学びあう。発表している人も聞いている人も相手のことを大切にし、しっかりと聞いたり発表したりし思いあう。そして、クラス全員で声をかけ合ったり協力し合ったり励まし合ったりすることで高めあっていくという事です。

私は、この「三愛」はどんなことに對しても、本気で向き合うために大切なことだと思っています。私達六年生は、今年の運動会に、組体操をしました。最高学年として最高の姿を見せられるよう、六年生全員で一つの技ができるまで何度も何度も練習をしました。その時も「三愛」が自然にできていたと思います。なかなか思い通りに技ができない人には、上手く出来ている人が教え、学びあいながら技を完成させました。ピラミッドなどの技では、上に乗る人は下で台になっている人に感謝し、下の台になっっている人は上に乗っている人が安心できるように支え、互いに思いあっていました。そして、本気で練習し高めあったからこそ、小学校最後の運動会で、今まで私達を支えてくれた先生方、保護者や地域の方々に最高の姿を見せることができました。

こんな素敵な「三愛」をこれからも大切にし、残りの小学校生活がもっと素敵なものになるように、仲間と共に「最高の姿」を目指して頑張っていきたいです。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第34回 —

伝統を引きついで

私がつ通っている須波小学校は、全校児童九十四人と小さな学校です。そのため、運動会や学習発表会などでは、低、中、高学年ごとに二年合同で演技を行っている。その中で、五、六年生が一生けん命取り組んでいるのが「須波っ子太鼓」です。

須波っ子太鼓は、しめ太鼓で拍をとり、そのリズムに乗ってたくさんのお太鼓で演奏します。五年生と六年生に分かれてちがうリズムを演奏すると、ちがうリズムどしどしがひびき合ってとてもかっこいいです。

須波っ子太鼓は昔から行われていて、毎年三学期に、六年生が四年生に引きつぐという形で伝統が守られてきました。難しいところがあると、六年生が下級生を引っばって、声をかけ合って練習にはげんでいます。年に数回、太鼓奏者の先生が太鼓を打つときの姿勢やポイントを指導に来てくださり、私たちはより練習に力が入ります。

昨年度の学習発表会では、はく力があるすばらしい演奏だったと、たくさんの方々にほめてもらいました。いつもきびしく指導してくださった先生にもほめてもらえてとてもうれしく、自分に自信をもてたことを今でもよく覚えています。また、みんなで力を合わせて必死にやっていたよかったです。

須波っ子太鼓は須波小学校の伝統です。これからもこの伝統を引きつぎ、より多くの人に須波っ子太鼓を知ってもらいたい、そう思います。

